

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事をよく聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事ができ、季節の花を植えて水を一緒にあげたり、眺めて季節感を味わう事も出来ます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族様も参加していただくアットホームなイベントになっています。イベントは、ご家族様と入居者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間なので、毎回大切にしています。また、月に1回生け花の先生や、三味線、お琴など演奏のボランティアの方々も来て下さり披露してくれます。近隣の幼稚園・小学校からの子供達の訪問、こちらから出向くなどお互いに交流を深めています。勤続年数の長い職員が多く、利用者にとって顔馴染みの多い環境で安心して過ごせていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人で事業所から渡り廊下を通ってリハビリや受診にいける距離にある。また、運営者は医師でもあり、毎週、往診があるため利用者と家族は医療面で安心できる。食事は、栄養士の立てたバランスよい献立で、食事の楽しみと健康を支えている。勤続年数の長い職員が多く、利用者と馴染みの関係が築けている。また、広報誌「菜の花だより」を毎月発行し、本人の暮らしぶりなどを家族に紹介している。一面芝生の中庭で、利用者は家族や地域住民と共に菜の花祭り、納涼祭、クリスマス会などを楽しむことができる。また、幼稚園児、小・中学生との交流、亥の子、生け花、三味線演奏のボランティアの受入れなど、地域の人たちとつながりを持ち、利用者の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 井出 美智子

評価完了日 21年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝、運営理念を唱和確認し、実践に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所開設時の理念を職員全員で話し合い、サービスのあり方を端的で分かりやすい言葉にして、新たな基本理念を作っている。管理者と職員はミーティングでケアを通し理念の振り返りを行い、地域密着型サービスの意義を踏まえて、毎月の具体的目標を掲げ、理念の共有と実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方々とは日常的に挨拶を交わし、農作業時には利用者と共に見学などさせてもらっている。神社の清掃等、地域の行事にも、参加をさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会とつながりを持ち、利用者と町内の祭りや水天宮の行事に参加したり、また町内清掃や草刈作業への協力、農作業の見学などもしている。日々の挨拶も積極的に交わし、幼稚園や小・中学校の行事への参加、訪問や体験学習の受入れで交流を図るなど、利用者が地域とふれあいながら暮らしていけるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎月、菜の花だより（本文中に認知症の方への対応等、助言の項目がある）を地域に発送している。また、近隣の幼稚園・小学校・中学校・看護学校等、生徒の体験学習受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めてもらえるよう、地域に発信している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所のサービス状況、様々な取組みを報告し、忌憚のない意見交換や、情報交換を行っている。 地域の様々な行事（神社でのお祭等）を教えてもらい、外出支援につなげている。	
			(外部評価) 地域住民の代表者、市職員、利用者及びその家族らを招き、法人内の小規模多機能施設と協力し2ヶ月毎に開催している。議題には、事業所の現状と課題、ターミナルケア、また評価の公表などを取り上げて、参加者からの活発な意見やアイデアをサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所内の様々な事を報告したり、法改正で疑問に思うことを問い合わせたりと、連絡を取り合うことが多くなった。	
			(外部評価) 市担当者への日頃の相談や報告をとおして、利用者の暮らしぶりや具体的な問題を伝えており、確かな協力関係ができています。また、市職員の新人研修の実施場所として事業所を提供するなど、職員や利用者との交流も図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で周知・徹底している。 利用者、家族に心理的圧迫を与えないように、居室や内玄関は施錠していない。 外（表）玄関のみ、不審者の侵入を防ぐなど、防犯上・また、利用者の安全確保上、施錠している。	
			(外部評価) 職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、中庭に面した各棟建物の玄関（内玄関）は、拘束をしないケアの取り組みとして施錠をしていない。外玄関は、運営推進会議でも検討してみたが、現在のところ利用者の防犯など安全の確保を優先し施錠をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止マニュアルに基づき、どのようなケアが虐待に当たるかを職員一同が十分に理解し、日常のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をして、対応の仕方などのマニュアルを作り、活用すべき時に支援ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 料金改定や報酬加算の時等には、書面にして各家族毎に理由等の十分な説明を行い、理解・納得、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が意見が言い難いという事を、管理者・職員は十分に理解し、匿名での投函の為の箱を設けたり、心情を理解した上で、来所時等に話を聞くように心掛けている。 (外部評価) 玄関にご意見箱を置くとともに、重要事項説明書に苦情相談先を明記し、共有空間の廊下の壁にもそれらを掲示している。利用者や家族と職員には馴染みの関係が築かれているため、直接、要望が出されることが多く、それらは職員間で話し合っ運営にも反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員間でミーティングを定期的に行い、意見・問題点等を出し合い、それらを文書にし代表者に提出している。代表者は、それらを総合的に判断して、管理者・職員の意欲の向上につながるような指示を行っている。	
			(外部評価) 毎月開催のミーティングで職員から出された提案や要望を事務長を通じて運営者が把握している。文書で回答することで双方向のコミュニケーションを図るとともに、運営にも反映させている。また、運営者が母体医療法人の医師であるため、毎朝、夜間勤務職員から直に報告を受けて、現場の状況把握に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格を取る事で、事業所としての質も向上するという事を理解し、積極的に支援をし、手当てという形で反映している。 長く勤めている職員の昇給もあり、意欲が出るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員の立場・経験や習熟度に応じて、研修計画を立てて実施している。 研修費用の援助も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加盟して、情報交換を行っている。 近々行われる連絡協議会主催の、相互研修の参加の検討をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談は家族の事が多いが、利用希望者ご本人のところにも職員が出向き、話をして関係が築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時、家族の立場に立ち、様々な声に耳を傾けて信頼関係が築けるように努めている。 また、家族の思いや体験等、多様な価値観を受け入れるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、ケアマネジャーや他職種の方々とも相談し、判断するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独にならないようにそっと寄り添い支えて、信頼関係が築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者が仲良く過ごせて、関係性が途切れないように面会時などには十分気を配っている。 菜の花だよりを通じて現状の報告を行い、イベント開催時等には、一緒に参加してもらえるように声かけを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して、外出支援を行ったり、電話連絡をして近況報告を行い、関係性が途切れないように努めている。 (外部評価) 敬老会仲間の訪問やお彼岸の家族でのお墓参り、馴染みのアイスのお店、スーパーへの買い物など、利用者がこれまで培ってきた一人ひとりの生活習慣や人間関係などをよく把握し、それが途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の感情、価値観などを尊重し、共同生活が楽しく送れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設を退去し在宅生活に戻っても、必要に応じて本人・家族の経過をみて必要に応じてフォロー・相談にのっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や利用者本人から、場面場面で聞き取れた話を元に、利用者の考え方・価値観を把握して、職員全員が同じ理解が出来るように、センター方式の活用を徐々にしている。 (外部評価) 利用者の断片的な言葉や表情から、一人ひとりの思いや意向を汲み取って把握している。困難な場合は、家族や病院からの情報を元に、どのように暮らすことが最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、または関連施設等の情報により聞き取れた話を元にして、生活歴等を把握のうえ、現在の生活において力が発揮出来る様な場面を提供し、自分らしく過ごせる様に配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 点と点が線になるように、断片的な関わりにならないよう、一日の流れの記録や申し送りを行い、カンファレンスを通じて、職員全員が現状把握出来る様に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族・本人の意向が十分に反映されるように意見を聞き、介護職員や他の職種の方々の意見も取り入れ、総合的に作成している。 定期的にモニタリングを行い、その都度検討をしている。	
			(外部評価) 入居時のフェイスシートを元に基本介護計画を立て、ミーティングやモニタリングで日々のケアのあり方を話し合うとともに、3ヵ月、6ヶ月毎に計画書を見直している。本人及び家族の意見や要望を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。センター方式の導入を徐々に進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画に対するモニタリングを日々行い、問題点を記録して見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模・多機能事業所があるので、在宅への移行、居住への移行がスムーズに行えるような体制が整っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方や民生委員の方の来所があり、継続して来所してもらえるように、声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 契約時に家族等に希望を聞いて、かかりつけ医・主治 医の確認をしている。 当事業所の場合、隣接の診療所の院長（法人理事長で 事業所代表者でもある）を主治医に希望される方が多 く、 受診の支援は円滑に行えている。</p> <p>(外部評価) 母体が医療法人で運営者が主治医であるため、連携を 密に図って希望の医療が受けられている。また必要に 応じて整形外科、皮膚科、眼科など、緊急時には総合 病院の受診を支援している。受診の同行は家族が基本 であるが、緊急時には職員が行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常的に情報交換を行い、利用者が個々に適切な受 診・ 看護が受けられるよう、医療連携が取れている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者と、必要な情報交換や相談は、適宜行え ている。 また、同法人であるため、病院関係者との関係づくり は十分できている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居契約時に家族に説明し、方針を共有している。 家族の要望があっても、緊急時等には主治医が判断し て 、説明し同意を得て、入院等の措置をとることも理解 してもらっている。</p> <p>(外部評価) 入居時から、重度化した場合や終末期のあり方につい て、家族に事業所の方針を説明し、随時、意向を確認 しながら関係者全員で方針を共有している。看取り指 針を作成し、職員はミーティングで話し合い、ケアの 統一に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による、救急救命訓練を定期的に行っている マニュアルを朝の申送り時等に、声を出して読んで、職員全員が周知徹底出来る様に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防訓練を行い、近隣の方の家にも訪問をして、協力を呼びかけている。 (外部評価) 消防署の協力の下、年2回の防火、避難訓練を定期的に行っている。緊急連絡網、消防計画避難訓練マニュアルを作成し、年数回、夜間想定を含めての自主避難訓練を利用者と共に実施し、避難経路及び消防計画実施記録簿も作成している。また缶詰、水なども備蓄している。災害時の協力を隣接の製材所をお願いしている。	利用者の安全確保のために、近隣住民の協力は不可欠であるため、運営推進会議等で協力を更に得られるようお願いしていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いは、十分に気をつけている。 利用者のプライベートが守られるように、入室時はロック・声かけを必ず行うようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者の尊厳とプライバシーを守ることの大切さを十分認識し、ミーティングでも人権意識を徹底している。日頃から、自尊心を傷つけないよう、さりげない言葉かけやケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても、ちょっとした仕草や態度で見極められるように、日頃漫然とケアをするのではなく新しい発見や気づきが得られるように目配り、気配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者優先と言う事を意識して、その人らしくを基本に、その人に合ったペースで支援をするように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員の価値観ではなく、あくまで利用者の価値観に添えるように気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方には、食事の準備やおぼん拭きを手伝ってもらっている。 いつでも温かい食事を提供して、食欲が出るように努めている。 (外部評価) 利用者は、調理の下ごしらえやお盆拭き、また他の利用者のお手伝いをするなど、一人ひとりが持てる力を発揮して、心身の力の維持や向上につなげている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるよう、雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が、栄養のバランスを考えメニューを作成しているの、必要なカロリー・水分量は確保出来ている。(水分摂取量は、夜間ケアチェック表にて、個々の摂取量を記録している)	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は、自力で歯磨きをしてもらい、出来ない人には職員が支援し、歯磨きチェック表に記録し確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が、自信の回復や身体機能の向上につながるという事を職員が理解し、可能な限りトイレで排泄出来るように支援している。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄状況を記録し、職員同士で情報を共有したうえで、一人ひとりの生活リズムや表情などを観察しながら、排泄パターンや習慣など個々に応じた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排泄パターン、状況を把握し便秘予防の対応に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じ、入浴支援を行っている。拒む利用者には拒否の原因を探り、無理強いさせず、入浴が楽しめるように支援をしている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を習慣にしている利用者を含め、一人ひとりの希望に合わせた入浴を楽しめるように配慮している。苦手な利用者には無理強いせず、声かけやタイミングを工夫しながら、個々の状況に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人に合った、日中の過ごし方をしてもらっている。昼夜逆転の方には、日中なるべく起きてもらうようにし、高齢の方には日中少し昼寝をしてもらうなど、色々工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の服用している薬について、職員は理解出来ている。 また、薬情により副作用や、注意事項を理解する努力をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の生活歴や趣味などを把握し、その人個人の楽しみごとが出来るように支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、可能な限り外出支援を行い、楽しんでもらっている。 行き先などは、出来るだけ本人の希望に添えるようにしている。 (外部評価) 毎週木曜日を外出予定日として、買い物や食事、ドライブに出かけたり、車いすの利用者にはお花見を目的にしたりと、内容に工夫しながら外出の支援に取り組んでいる。	重度化しているケースでも身体状況や希望に合わせて、中庭で外気に触れるなど、短時間でも五感を刺激するような外出支援のさらなる取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望や能力に応じてお金を所持していただき、使えるように支援をしている。 また、事情により預かり金がある利用者には、月に1回 キパーンの方、に、収支報告をして確認のサインをもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の要望により、電話や手紙のやりとりは自由出来るようになっており、職員はそれを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者に居心地よく過ごしていただくよう、馴染みの空間になるよう、適度な飾り付けや、季節感を感じる花を飾るなど、いろいろ工夫している。 また、朝・昼・夕・夜と認識してもらえるよう、照明の明るさにも配慮している。</p> <p>(外部評価) 居間と食堂の天井も高く、ウッドデッキを備えた芝生の中庭に面しており、明るく開放感に溢れている。調理の音や食欲を促す匂いがして家庭的な雰囲気がある。ホーム内の温度管理もできており暮らしやすい。幼稚園児からの七夕飾りで季節感を取り入れ、ピアノやソファー、ゲーム用品の棚などを適度に配置し、ゆったりと居心地のよい空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安心出来る居場所、居心地良く過ごせる場所、そうした空間づくりをしている。 ひとりが良い時、気の合う同士で語り合いたい時等、状況に応じて、スペースをつくる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 思い出の品や写真を持ち込んでもらい、本人にとって一番安らぐ場所として、居心地良く過ごせる様に支援をしている。</p> <p>(外部評価) テレビ、タンスや冷蔵庫など使い慣れた物や、家族の思い出の写真やインテリアグッズなど、一人ひとりの好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者がひとりで出来る事は、なるべくしてもらいながら、リハビリスタッフと協力して、安全で自立して暮らせる環境になるように工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事を良く聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事ができ、季節の花を植えて一緒にあげたり、眺めて季節感を味わう事も出来ます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族様も参加していただくアットホームなイベントになっています。イベントはご家族様と入居者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間なので、毎回大切にしています。また、月に1回生け花の先生や三味線、お琴など演奏のボランティアの方々も来て下さり、披露してくれます。近隣の幼稚園・小学校からの子供達の訪問、こちらから出向くなどお互いに交流を深めています。勤続年数の長い職員が多く、利用者にとって顔馴染みの多い環境で安心して過ごせていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人で事業所から渡り廊下を通ってリハビリや受診にいける距離にある。また、運営者は医師でもあり、毎週、往診があるため利用者と家族は医療面で安心できる。食事は、栄養士の立てたバランスよい献立で、食事の楽しみと健康を支えている。勤続年数の長い職員が多く、利用者と馴染みの関係が築けている。また、広報誌「菜の花だより」を毎月発行し、本人の暮らしぶりなどを家族に紹介している。一面芝生の中庭で、利用者は家族や地域住民と共に菜の花祭り、納涼祭、クリスマス会などを楽しむことができる。また、幼稚園児、小・中学生との交流、亥の子、生け花、三味線演奏のボランティアの受入れなど、地域の人たちとつながりを持ち、利用者の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 井出 美智子

評価完了日 21年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝、運営理念を唱和確認し、実践に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所開設時の理念を職員全員で話し合い、サービスのあり方を端的で分かりやすい言葉にして、新たな基本理念を作っている。管理者と職員はミーティングでケアを通し理念の振り返りを行い、地域密着型サービスの意義を踏まえて、毎月の具体的目標を掲げ、理念の共有と実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方々とは日常的に挨拶を交わし、農作業時には利用者と共に見学などさせてもらっている。神社の清掃等地域の行事にも、参加をさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会とつながりを持ち、利用者と町内の祭りや水天宮の行事に参加したり、また町内清掃や草刈作業への協力、農作業の見学などもしている。日々の挨拶も積極的に交わし、幼稚園や小・中学校の行事への参加、訪問や体験学習の受入れで交流を図るなど、利用者が地域とふれあいながら暮らしていけるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎月、菜の花だより（本文中に認知症の方への対応等、助言の項目がある）を地域に発送している。また、近隣の幼稚園・小学校・中学校・看護学校等、生徒の体験学習受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めてもらえるよう、地域に発信している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所のサービス状況、様々な取組みを報告し、忌憚のない意見交換や、情報交換を行っている。 地域の様々な行事（神社でのお祭等）を教えてもらい、外出支援につなげている。	
			(外部評価) 地域住民の代表者、市職員、利用者及びその家族らを招き、法人内の小規模多機能施設と協力し2ヶ月毎に開催している。議題には、事業所の現状と課題、ターミナルケア、また評価の公表などを取り上げて、参加者からの活発な意見やアイデアをサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所内の様々な事を報告したり、法改正で疑問に思うことを問い合わせたりと、連絡を取り合うことが多くなった。	
			(外部評価) 市担当者への日頃の相談や報告をとおして、利用者の暮らしぶりや具体的な問題を伝えており、確かな協力関係ができています。また、市職員の新人研修の実施場所として事業所を提供するなど、職員や利用者との交流も図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で周知、徹底している。 利用者、家族に心理的圧迫を与えないように、居室や内玄関は施錠していない。 外（表）玄関のみ、不審者の侵入を防ぐなど、防犯上・また、利用者の安全確保上、施錠している。	
			(外部評価) 職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、中庭に面した各棟建物の玄関（内玄関）は、拘束をしないケアの取り組みとして施錠をしていない。 外玄関は、運営推進会議でも検討してみたが、現在のところ利用者の防犯など安全の確保を優先し施錠をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止マニュアルに基づき、どのようなケアが虐待に当たるかを職員一同が十分に理解し、日常的ケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をして、対応の仕方などのマニュアルを作り、活用すべき時に支援ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 料金改定や報酬加算の時等には、書面にして各家族毎に理由等の十分な説明を行い、理解・納得、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が意見が言い難いという事を、管理者・職員は十分に理解し、匿名での投函の為の箱を設けたり、心情を理解した上で来所時等に話を聞くように心掛けている。 (外部評価) 玄関にご意見箱を置くとともに、重要事項説明書に苦情相談先を明記し、共有空間の廊下の壁にもそれらを掲示している。利用者や家族と職員には馴染みの関係が築かれているため、直接、要望が出されることが多く、それらは職員間で話し合っ運営にも反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員間でミーティングを定期的に行い、意見・問題点等を出し合いそれらを文書にし代表者に提出している。代表者は、それらを総合的に判断して、管理者・職員の意欲の向上につながるような指示を行っている。</p> <p>(外部評価) 毎月開催のミーティングで職員から出された提案や要望を事務長を通じて運営者が把握している。文書で回答することで双方向のコミュニケーションを図るとともに、運営にも反映させている。また、運営者が母体医療法人の医師であるため、毎朝、夜間勤務職員から直に報告を受けて、現場の状況把握に役立っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格を取る事で、事業所としての質も向上するという事を理解し、積極的に支援をし、手当てという形で反映している。 長く勤めている職員の昇給もあり、意欲が出るようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各職員の立場、経験や習熟度に応じて研修計画を立てて実施している。 研修費用の援助も行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加盟して、情報交換を行っている。 近々行われる連絡協議会主催の、相互研修の参加の検討をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 相談は家族の事が多いが、利用希望者ご本人のところにも職員が出向き、話をして関係が築けるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時、家族の立場に立ち、様々な声に耳を傾けて信頼関係が築けるように努めている。 また家族の思いや体験等、多様な価値観を受け入れるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所内だけでなく、状況に応じて医療機関や他のサービス利用も検討するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独にならないようにそっと寄り添い支えて、信頼関係が築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者が仲良く過ごせて、関係性が途切れないように面会時などには十分気を配っている。 菜の花だよりを通じて現状の報告を行い、イベント開催時等には、一緒に参加してもらえるように声かけを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して、外出支援を行ったり、電話連絡をして近況報告を行い、関係性が途切れないように努めている。 (外部評価) 敬老会仲間の訪問やお彼岸の家族とのお墓参り、馴染みのアイスのお店、スーパーへの買い物など、利用者がこれまで培ってきた一人ひとりの生活習慣や人間関係などをよく把握し、それが途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の価値観、感情等を尊重し、円滑にコミュニケーションが取れるように場面作りに配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住まいが変わる事のダメージを理解し、必要な情報提供 ・助言を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や利用者本人から、場面場面で聞き取れた話を元に、利用者の考え方・価値観を把握して、職員全員が同じ理解が出来るように、センター方式を徐々に利用している。 (外部評価) 利用者の断片的な言葉や表情から、一人ひとりの思いや意向を汲み取って把握している。困難な場合は、家族や病院からの情報を元に、どのように暮らすことが最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、または関連施設等の情報により聞き取れた話を元にして、生活歴等を把握のうえ、現在の生活において力が発揮出来る様な場面を提供し、自分らしく過ごせる様に配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 点と点が線になるように、断片的な関わりにならないよう、一日の流れの記録や申し送りを行い、カンファレンスを通じて、職員全員が現状把握出来る様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族、本人の意向が十分に反映されるように意見を聞き、介護職員や他の業種の方々の意見も取り入れ総合的に作成している。 定期的にモニタリングを行い、その都度検討をしている。 (外部評価) 入居時のフェイスシートを元に基本介護計画を立て、ミーティングやモニタリングで日々のケアのあり方を話し合うとともに、3ヵ月、6ヶ月毎に計画書を見直している。本人及び家族の意見や要望を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。センター方式の導入を徐々に進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の目標に向かって、漫然とした記録にならないように気づき等を記入するように心がけている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模・多機能事業所があるので、在宅への移行、居住への移行がスムーズに行えるような体制が出来上がっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方々や民生委員の方の来所があり、継続して来て貰える様に声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 契約時に家族等に希望を聞いて、かかりつけ医・主治 医の確認をしている。 当事業所の場合、隣接の診療所の院長（法人理事長で 事業所代表者でもある）を主治医に希望される方が多 く、受診の支援は円滑に行えている。</p> <p>(外部評価) 母体が医療法人で運営者が主治医であるため、連携を 密に図って希望の医療が受けられている。また必要に 応じて整形外科、皮膚科、眼科など、緊急時には総合 病院の受診を支援している。受診の同行は家族が基本 であるが、緊急時には職員が行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常的に情報交換を行い、利用者が個々に適切な受 診・看護が受けられるよう、医療連携が取れている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者と、必要な情報交換や相談は、適宜行え ている。 また、同法人であるため、病院関係者との関係づくり は十分出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居契約時に家族に説明し、方針を共有している。 家族の要望があっても、緊急時等には主治医が判断し て 、説明し同意を得て、入院等の措置を取る事も理解し てもらっている。</p> <p>(外部評価) 入居時から、重度化した場合や終末期のあり方につ いて、家族に事業所の方針を説明し、随時、意向を確認 しながら関係者全員で方針を共有している。看取り指 針を作成し、職員はミーティングで話し合い、ケアの 統一に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による、救急救命訓練を定期的に行っている。 マニュアルを朝の申し送り時等に、声を出して読んで、職員全員が周知徹底出来る様に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防訓練を行い、近隣の方の家にも訪問をして、協力を呼びかけている。 (外部評価) 消防署の協力の下、年2回の防火、避難訓練を定期的に行っている。緊急連絡網、消防計画避難訓練マニュアルを作成し、年数回、夜間想定を含めての自主避難訓練を利用者と共に実施し、避難経路及び消防計画実施記録簿も作成している。また缶詰、水なども備蓄している。災害時の協力を隣接の製材所をお願いしている。	利用者の安全確保のために、近隣住民の協力は不可欠であるため、運営推進会議等で協力を更に得られるようお願いしていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いには十分に気を付けている。 利用者の居室に入る時にはノックと声かけをしてから入るように、職員全員が徹底している。 (外部評価) 職員は、利用者の尊厳とプライバシーを守ることの大切さを十分認識し、ミーティングでも人権意識を徹底している。日頃から、自尊心を傷つけないよう、さりげない言葉かけやケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても、ちょっとした仕草や態度で見極められるように、日頃漫然とケアをするのではなく新しい発見や気づきが得られるように目配り、気配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者優先という事を意識して、その人らしくを基本に、その人に合ったペースで支援をするように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員の価値観ではなく、あくまで利用者の価値観に添えるように気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事介助の方が多く、漫然と介助をせずにユーモアを交えて、会話のある楽しい食卓の雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 利用者は、調理の下ごしらえやお盆拭き、また他の利用者のお手伝いをするなど、一人ひとりが持てる力を発揮して、心身の力の維持や向上につなげている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるよう、雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が、バランスを考えたメニューを作ってくれている。 汁物や食後のお茶は、全部飲んでもらえるように声かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 飲みこみが悪い人などは、STに相談し道具を使った口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が、自信の回復や身体機能の向上につながるということを職員が理解し、可能な限りトイレで排泄出来るように支援している。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄状況を記録し、職員同士で情報を共有したうえで、一人ひとりの生活リズムや表情などを観察しながら、排泄パターンや習慣など個々に応じた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表などで排便の有無を確認し、食材の工夫や、個々に合った運動が出来るように支援をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じ、入浴支援を行っている。拒む利用者には拒否の原因を探り、無理強いさせる事なく、入浴が楽しめるように支援をしている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を習慣にしている利用者を含め、一人ひとりの希望に合わせた入浴を楽しめるように配慮している。苦手な利用者には無理強いせず、声かけやタイミングを工夫しながら、個々の状況に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中楽しく過ごしてもらえるように、遊んだりカラオケ、会話等をして一緒に過ごし、夜は気持ちよく眠れるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の利用している薬は把握しており、用法・用量も理解している。 副作用等についても薬状で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の昔の生活習慣を把握して、無理のないような範囲で役割や、楽しみが持てるように支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、散歩や外出を支援し又、家族の協力を得て週に一度は皆で外出をし、季節の移り変わり等を楽しんでもらっている。 (外部評価) 毎週木曜日を外出予定日として、買い物や食事、ドライブに出かけたり、車いすの利用者にはお花見を目的にしたりと、内容に工夫しながら外出の支援に取り組んでいる。	重度化しているケースでも身体状況や希望に合わせて、中庭で外気に触れるなど、短時間でも五感を刺激するような外出支援のさらなる取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望や能力に応じてお金を所持していただき、使えるように支援をしている。 また、事情により預かり金がある利用者には、月に一回キーパーソンの方に、収支報告をして確認のサインを貰っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の状況に応じ、電話・手紙のやりとりの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者に居心地良く過ごしていただくよう、馴染みの空間になるよう、適度な飾り付けや、季節感を感じる花を飾るなど、いろいろ工夫している。 また、朝・昼・夕・夜と認識してもらえるよう、照明の明るさにも配慮している。</p> <p>(外部評価) 居間と食堂の天井も高く、ウッドデッキを備えた芝生の中庭に面しており、明るく開放感に溢れている。調理の音や食欲を促す匂いがして家庭的な雰囲気がある。ホーム内の温度管理もできており暮らしやすい。幼稚園児からの七夕飾りで季節感を取り入れ、ピアノやソファー、ゲーム用品の棚などを適度に配置し、ゆったりと居心地のよい空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安心出来る居場所、居心地良く過ごせる場所、そうした空間作りをしている。 ひとりが良い時、気の合う同士で語り合いたい時等状況に応じて、スペースを作る工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者にとって、安心して居心地良く過ごせる空間となるように、馴染みのものや思い出の写真等を家族に聞いて、持ち込んで貰っている。</p> <p>(外部評価) テレビ、タンスや冷蔵庫など使い慣れた物や、家族の思い出の写真やインテリアグッズなど、一人ひとりの好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや風呂場と分かるプレートを、利用者の目の高さに貼り、又目めくりカレンダーも目の高さに置いて認識できるようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成21年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事を良く聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事ができ、季節の花を植えて水を一緒にあげたり、眺めて季節感を味わう事もできます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族様も参加していただくアットホームなイベントになっています。イベントはご家族様と入居者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間なので、毎回大切にしています。また、月に1回生け花の先生や、三味線、お琴など演奏のボランティアの方々も来て下さり、披露してくれます。近隣の幼稚園・小学校からの子供達の訪問、こちらから出向くなどお互いに交流を深めています。勤続年数の長い職員が多く、利用者にとって顔馴染みの多い環境で安心して過ごせていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人で事業所から渡り廊下を通ってリハビリや受診にいける距離にある。また、運営者は医師でもあり、毎週、往診があるため利用者と家族は医療面で安心できる。食事は、栄養士の立てたバランスよい献立で、食事の楽しみと健康を支えている。勤続年数の長い職員が多く、利用者と馴染みの関係が築けている。また、広報誌「菜の花だより」を毎月発行し、本人の暮らしぶりなどを家族に紹介している。一面芝生の中庭で、利用者は家族や地域住民と共に菜の花祭り、納涼祭、クリスマス会などを楽しむことができる。また、幼稚園児、小・中学生との交流、亥の子、生け花、三味線演奏のボランティアの受入れなど、地域の人たちとつながりを持ち、利用者の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)
氏名 井出 美智子

評価完了日 21年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎朝、運営理念を唱和確認し、実践に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所開設時の理念を職員全員で話し合い、サービスのあり方を端的で分かりやすい言葉にして、新たな基本理念を作っている。管理者と職員はミーティングでケアを通し理念の振り返りを行い、地域密着型サービスの意義を踏まえて、毎月の具体的目標を掲げ、理念の共有と実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方々とは日常的に挨拶を交わし、農作業時には利用者と共に見学などさせてもらっている。神社の清掃等地域の行事にも、参加をさせてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会とつながりを持ち、利用者と町内の祭りや水天宮の行事に参加したり、また町内清掃や草刈作業への協力、農作業の見学などもしている。日々の挨拶も積極的に交わし、幼稚園や小・中学校の行事への参加、訪問や体験学習の受入れで交流を図るなど、利用者が地域とふれあいながら暮らしていけるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎月、菜の花だより（本文中に認知症の方への対応等、助言の項目がある。）を地域に発送している。また近隣の幼稚園・小学校・中学校・看護学校等、生徒の体験学習の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めてもらえるよう、地域に発信している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所のサービス状況、様々な取組みを報告し、忌憚のない意見交換や、情報交換を行なっている。 地域の様々な行事（神社でのお祭等）を教えてもらい、外出支援に繋げている。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 地域住民の代表者、市職員、利用者及びその家族らを招き、法人内の小規模多機能施設と協力し2ヶ月毎に開催している。議題には、事業所の現状と課題、ターミナルケア、また評価の公表などを取り上げて、参加者からの活発な意見やアイデアをサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所内の様々な事を報告したり、法改正で疑問に思うことを問い合わせたりと、連絡を取り合うことが多くなった。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 市担当者への日頃の相談や報告をとおして、利用者の暮らしぶりや具体的な問題を伝えており、確かな協力関係ができています。また、市職員の新人研修の実施場所として事業所を提供するなど、職員や利用者との交流も図られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で周知、徹底している。 利用者、家族に心理的圧迫を与えないように、居室や内玄関は施錠していない。 外（表）玄関のみ、不審者の侵入を防ぐなど、防犯上・また利用者の安全確保上、施錠している。	次ステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			(外部評価) 職員は鍵をかけない暮らしの大切さについて認識しており、中庭に面した各棟建物の玄関（内玄関）は、拘束をしないケアの取り組みとして施錠をしていない。 外玄関は、運営推進会議でも検討してみたが、現在のところ利用者の防犯など安全の確保を優先し施錠をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止マニュアルに基づき、どのようなケアが虐待に当たるかを職員一同が十分に理解し、日常のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をして、対応の仕方などのマニュアルを作り、活用すべき時に支援ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 料金改定や報酬加算の時等には、書面にして各家族毎に理由等の十分な説明を行い、理解・納得、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が意見がいい難いという事を、管理者、職員は十分に理解し、匿名での投函の為の箱を設けたり、心情を理解した上で来所時等に話を聞くように心掛けている。 (外部評価) 玄関にご意見箱を置くとともに、重要事項説明書に苦情相談先を明記し、共有空間の廊下の壁にもそれらを掲示している。利用者や家族と職員には馴染みの関係が築かれているため、直接、要望が出されることが多く、それらは職員間で話し合っ運営にも反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員間でミーティングを定期的に行い、意見、問題点などを出し合いそれらを文書にし代表者に提出している。代表者は、それらを総合的に判断して、管理者・職員の意欲の向上につながるような指示を行っている。	
			(外部評価) 毎月開催のミーティングで職員から出された提案や要望を事務長を通じて運営者が把握している。文書で回答することで双方向のコミュニケーションを図るとともに、運営にも反映させている。また、運営者が母体医療法人の医師であるため、毎朝、夜間勤務職員から直に報告を受けて、現場の状況把握に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格を取る事で、事業所としての質も向上するという事を理解し、積極的に支援をし、手当てという形で反映している。 長く勤めている職員の昇給もあり、意欲が出るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員の立場、経験や習熟度に応じて研修計画を立てて、実施している。 研修費用の援助も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加盟して、情報交換を行っている。 近々行われる連絡協議会主催の、相互研修の参加の検討をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談は家族の事が多いが、利用希望者ご本人のところにも職員が出向き、話をして関係が築けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時、家族の立場に立ち、様々な声に耳を傾けて信 頼関係が築けるように努めている。 また、家族の思いや体験等、多様な価値観を受け入れ るように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事業所内だけでなく、状況に応じて医療機関や他のサ ービス利用も検討するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独に ならないようにそっと寄り添い支えて、信頼関係が築 けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者が仲良く過ごせて、関係性が途切れない ように面会時などには十分気を配っている。 菜の花だよりを通じて現状の報告を行い、イベント開 催時等には、一緒に参加してもらえるように声かけを 行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して、外出支 援を行ったり、電話連絡をして近況報告を行い、関係 性が途切れないように努めている。 (外部評価) 敬老会仲間の訪問やお彼岸の家族でのお墓参り、馴染みのア イスのお店、スーパーへの買い物など、利用者がこれまで 培ってきた一人ひとりの生活習慣や人間関係などをよく把握 し、それが途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の価値観、感情等を尊重し、円滑にコミュニケーションが取れるように場面作りに配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 住まいが変わる事のダメージを理解し、必要な情報提供、助言を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や利用者本人から、場面場面で聞き取れた話を元に、利用者のや考え方、価値観を把握して職員全員が同じ理解が出来るように、センター方式を徐々に活用している。	
			(外部評価) 利用者の断片的な言葉や表情から、一人ひとりの思いや意向を汲み取って把握している。困難な場合は、家族や病院からの情報を元に、どのように暮らすことが最良なのかを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、または関連施設等の情報により聞き取れた話を元にして、生活歴等を把握の上、現在の生活において力が発揮出来る様な場面を提供し、自分らしく過ごせる様に配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 点と点が線になるように、断片的な関わりにならずに、一日の流れになるように記録や、申し送りを行いカンファレンスを通じて、職員全員が現状把握出来る様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族、本人の意向が十分に反映されるように意見を聞き、又介護職員や他の業種の方々の意見も取り入れ総合的に作成している。 定期的にモニタリングを行い、その都度検討をしている。 (外部評価) 入居時のフェイスシートを元に基本介護計画を立て、ミーティングやモニタリングで日々のケアのあり方を話し合うとともに、3ヵ月、6ヶ月毎に計画書を見直している。本人及び家族の意見や要望を聞いて、現状に即した介護計画を作成している。センター方式の導入を徐々に進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の中の目標に向かって、漫然とした記録にならないように気づき等を記入するように心掛けている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模・多機能事業所があるので、在宅への移行、居住への移行がスムーズに行えるな体制が出来上がっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方や民生委員の方の来所があり、継続してきてもらえるように声かけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 契約時に家族等に希望を聞いて、かかりつけ医・主治 医の確認をしている。 当事業所の場合、隣接の診療所の院長（法人理事長で 事業所代表者でもある）を主治医に希望される方が多 く、受診の支援は円滑に行われている。</p> <p>(外部評価) 母体が医療法人で運営者が主治医であるため、連携を 密に図って希望の医療が受けられている。また必要に 応じて整形外科、皮膚科、眼科など、緊急時には総合 病院の受診を支援している。受診の同行は家族が基本 であるが、緊急時には職員が行っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日常的に情報交換を行い、利用者が個々に適切な受 診・看護が受けられるよう、医療連携が取れている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院関係者と、必要な情報交換や相談は、適宜行え ている。 また、同法人であるため、病院関係者との関係は十分 できている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居契約時に家族に説明し、方針を共有している。 家族の要望があっても、緊急時等には主治医が判断し て 、説明し同意を得て、入院等の措置をとることも理解 してもらっている。</p> <p>(外部評価) 入居時から、重度化した場合や終末期のあり方につ いて、家族に事業所の方針を説明し、随時、意向を確認 しながら関係者全員で方針を共有している。看取り指 針を作成し、職員はミーティングで話し合い、ケアの 統一に配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による、救急救命訓練を定期的に行っている。 。マニュアルを朝の申送り時等に、声を出して読んで、職員全員が周知徹底出来る様に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回消防訓練を行い、近隣の方の家にも訪問をして、協力を呼びかけている。 (外部評価) 消防署の協力の下、年2回の防火、避難訓練を定期的に行っている。緊急連絡網、消防計画避難訓練マニュアルを作成し、年数回、夜間想定を含めての自主避難訓練を利用者と共に実施し、避難経路及び消防計画実施記録簿も作成している。また缶詰、水なども備蓄している。災害時の協力を隣接の製材所をお願いしている。	利用者の安全確保のために、近隣住民の協力は不可欠であるため、運営推進会議等で協力を更に得られるようお願いしていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いは十分に気をつけている。 利用者個々のプライバシーが守られるように、失禁があった時など周りの方に気づかれないように最大限気を配っている。 (外部評価) 職員は、利用者の尊厳とプライバシーを守ることの大切さを十分認識し、ミーティングでも人権意識を徹底している。日頃から、自尊心を傷つけないよう、さりげない言葉かけやケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても、ちょっとした仕草や態度で見極められるように、日頃漫然とケアをするのではなく新しい発見や気づきが得られるように目配り、気配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者優先と言う事を意識して、その人らしくを基本に、その人に合ったペースで支援をするように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員の価値観ではなく、あくまで利用者の価値観に添えるように気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る方には、食事の準備やおぼん拭き等を手伝ってもらっている。 いつでも温かい食事を提供して、食欲が出るように努めている。 (外部評価) 利用者は、調理の下ごしらえやお盆拭き、また他の利用者のお手伝いをするなど、一人ひとりが持てる力を発揮して、心身の力の維持や向上につなげている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるよう、雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が立てた献立メニューで調理をしている。 。キザミが必要な方や、水分がむせこむ方にゼリー状にして提供するなど、個々の状態に合ったものを提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力で出来る方は見守り、声かけをしている。 歯磨きチェック表を用いて、介助が必要な方も忘れないように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が、自信の回復や身体機能の向上につながるということを職員が理解し、可能な限りトイレで排泄出来るように努めている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄状況を記録し、職員同士で情報を共有したうえで、一人ひとりの生活リズムや表情などを観察しながら、排泄パターンや習慣など個々に応じた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の便秘の原因を探り、自然排便を促せる取り組みを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴したい方など、出来る限り希望に添えるように努力している。 又女性の利用者で、男性の介護職員を嫌がる方には女性職員が対応をしている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を習慣にしている利用者を含め、一人ひとりの希望に合わせた入浴を楽しめるように配慮している。苦手な利用者には無理強いをせず、声かけやタイミングを工夫しながら、個々の状況に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人に合った、日中の過ごし方をしてもらっている。昼夜逆転の方には、日中なるべく起きてもらうようにし、高齢の方には日中少し昼寝をしてもらうなど、色々工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が複数の目で確認して飲み忘れや、間違いがないように気をつけている。 薬状の控えを保存していつでも確認が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の昔の生活習慣を把握して、無理のないような範囲で、役割や楽しみが持てるように支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 重度の方が多くて日常的には難しいが、車を使ってのドライブや外食等定期的に外出支援をしている。 家族も協力してくれている。	(外部評価) 毎週木曜日を外出予定日として、買い物や食事、ドライブに出かけたり、車いすの利用者にはお花見を目的にしたりと、内容に工夫しながら外出の支援に取り組んでいる。	重度化しているケースでも身体状況や希望に合わせて、中庭で外気に触れるなど、短時間でも五感を刺激するような外出支援のさらなる取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望や能力に応じてお金を所持していただき、使えるように支援をしている。 また、事情により預かり金がある利用者には、月に1回キーパーソンの方に、収支報告をして確認のサインをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族が遠くに住んでいて、日常的に来所が難しい方には定期的に電話や手紙を出して、現状の報告や本人の会話を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者に居心地良く過ごしていただくよう、馴染みの空間になるよう、適度な飾り付けや、季節感を感じる花を飾るなど、いろいろ工夫している。 また、朝・昼・夕・夜と認識してもらえるよう、照明の明るさにも配慮している。</p> <p>(外部評価) 居間と食堂の天井も高く、ウッドデッキを備えた芝生の中庭に面しており、明るく開放感に溢れている。調理の音や食欲を促す匂いがして家庭的な雰囲気がある。ホーム内の温度管理もできており暮らしやすい。幼稚園児からの七夕飾りで季節感を取り入れ、ピアノやソファ、ゲーム用品の棚などを適度に配置し、ゆったりと居心地のよい空間になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安心出来る居場所、居心地良く過ごせる場所、そうした空間作りをしている。 ひとりが良い時、気の合う同士で語り合いたい時等、状況に応じて、スペースをつくる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者にとって、安心して居心地よく過ごせる空間となるように、馴染みのものや思い出の写真等を家族に聞いて、持ち込んでもらっている。</p> <p>(外部評価) テレビ、タンスや冷蔵庫など使い慣れた物や、家族の思い出の写真やインテリアグッズなど、一人ひとりの好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者がひとりで出来る事は、なるべくしてもらいながら、リハビリスタッフと協力して、安全で自立して暮らせる環境になるように工夫している。</p>	